

秋田県農林水産部より作況ニュース第5号が発表されましたのでお知らせします！

水稲

栄養診断に基づいた肥培管理の徹底を

— 茎数が少なく、葉色は濃い —

移植水稲の本田の生育(7月5日)

	あきたこまち (県内64地点)	ひとめぼれ (県央6地点)
草丈(cm)	43.0(85%)	43.3(84%)
茎数(本/m ²)	495(90%)	589(98%)
葉数(葉)	9.7(-0.3葉)	9.5(-0.6葉)
葉緑素計値	45.4(105%)	40.9(103%)

※()は平年との比較

今年は生育が遅れ気味なんだな～



<当面の技術対策(7月下旬)>

各ほ場の幼穂形成期を把握して栄養診断を行い、適正な施肥管理を実施してください。

中干し終了の目安と水管理

幼穂形成期に土壤水分が不足すると1穂粒数の減少を招くので、中干しは、幼穂形成期前に終了し、間断かん水に切り替えてください。また、移植が遅かったほ場では中干し終了後も落水期間をやや長めの間断かん水としてください。

アメダスの平均気温と発育モデルから予測されるあきたこまちの幼穂形成期(幼穂長2mm)は、7月6日以降の気温が平年並で経過した場合、県北部(大館:5月15日中苗移植)で7月16日、県中央部(秋田:5月20日中苗移植)で7月16日、県南部(横手:5月25日中苗移植)で7月19日となります。

直播栽培では、転び型倒伏を防止するため、中干し終了後も落水期間をやや長めとする間断かん水により、土壤硬度を保つようにしてください。また、中干しが十分に出来なかった場合や、軟弱なほ場では、反復落水管理(穂ばらみ期や登熟初期の1週間程度の落水)を実施してください。

お問合せは 生産資材部 肥料農薬推進課 018-880-1624 へ



JA全農あきた 営農支援部
営農支援課

TEL018-864-2462